

<要点>

- 1 委員会の検討が拙速なもので終わらないよう、専門的な知識をもった方を含めた深い論議を効率的に進めていただきたい。
- 2 「施設が空いたからどう使いましょうか？」という枝葉の論議でなく、町のため、天方地区三倉地区のための跡地利活用という根幹からの検討をしていただきたい。

1 森町小中学校跡地利活用検討委員会の進め方について

- (1) 今年度末の決定にこだわらず、しっかりと論議をした上での跡地利活用を決めていただきたい。〔拙速な決定を避ける〕

令和2年度は、1回しか森町小中学校跡地利活用検討委員会が開催かれなかったのは残念だったが、今となっては、焦って跡地利活用を決めるのではなく、しっかりとした論議を重ねた上で跡地利活用が必要だと考える。決定までのロードマップについても検討していく必要があると考える。

- (2) 効率的な話し合いを進めていただきたい。〔協議を深める〕

前回のような、事務局側の提案を受け、一人ずつ質問意見を言う形式であると、論議が深まらない。少人数で話し合った上での協議を進めるなど、意見が深まり、かつ効率的な話し合いが必要だと考える。

- (3) 専門家によるコンサルティングを行っていただきたい。〔専門家の招へいを〕

委員のメンバーによる案や跡地利活用に関心を持つ民間業者からの希望では、アイディアの幅が狭くなる。専門家によるコンサルティングが必要だと考える。

2 町政における跡地利活用の位置づけについて

- (1) 単なる施設利用にとどまらない、“町が進むべき方向を踏まえた利活用”の視点を持って検討を進めていただきたい。〔町のための跡地利活用を〕

森町の課題は、人口減少・産業振興・地域振興・教育の充実等、様々あると考えるが、それらの課題を踏まえた跡地利活用の検討を進めるために、**現在の町の課題と現状を共通認識した上での検討**が必要だと考える。今回跡地の利活用を考える天方地区・三倉地区は森町の半分の面積を占める。単に「施設が空いたので、何に使用しますか？」ではなく、「3つの跡地利活用をどのように町政に生かしますか？」という目的意識をもった検討が必要だと考える。

- (2) “天方地区・三倉地区に必要なことは何か？”という視点をもって検討を進めていただきたい。〔天方・三倉地区のための跡地利活用を〕

平成30年に出された“森町学校の在り方検討会：答申 P8 には、「**学校がなくなること**でコミュニティの核を失い、地域の疲弊を加速させていくような負のスパイラルが生じることの無いよう、**最大限の工夫を講じる必要がある。**」とされている。

令和2年度に1回しか委員会が開かれなかったこと自体、この答申に沿ったものであると感じられない。真に両地区の地域の活性化につながるような話し合いを進める必要があると考える。